

宗像大社 沖津宮遙拝所と遙拝について

沖津宮遙拝所は、18世紀前半に沖ノ島を遠方から遙拝するために建てられました。沖ノ島はほとんどの人が訪れることができないため、この小さな拝礼施設はその代わりとして機能しています。遠くから拝礼するための場所は「遙拝所」と呼ばれ、日本では珍しくなく、神職が特定の神社に直接足を運ぶことができない場合に重宝する場所を提供しています。

晴天の日には、ここから沖ノ島が見えます。春と秋の祭りの時期を含めて年に数回、沖津宮遙拝所が開かれ、沖ノ島の景色がその四角い窓で縁取られます。江戸時代(1603~1867年)、神官が沖ノ島に辿り着けるとは限らなかったため、ここで沖津宮の神事が盛んに行われました。今日では、地元の漁師の妻たちが、夫が沖ノ島周辺で漁をするときに、海での安全をここで祈ります。遙拝所の上には、玄界灘と陰しい海岸線を一望できる展望台へと続く小道があります。